

東工取と密に連携

業界変革に刻々と対応



長田 哲也会長

上場商品の増加、新種取引の登場、法律と税制の改正、インターネット取引の成長など、業界の変化に対応、各社とも電算システムの手直しを重ねていく。取引所や業界団体と密接に連絡、システム対応の中心的役割を果たしているのが東京商品取引員電算部会(会長=長田哲也・岡藤情報サービス常務)である。

ザラバ方式がきっかけ

電算部会ができたのは平成元年五月。東京工業品取引所がコンピューターによるザラバ方式のシステム売買実施の準備を急ピッチで進めている時だった。「みんなで効率良く情報を収集しよう」と、東京に電算システムがある十八社の責任者が集まり、設立した。初代会長は富士商品(現フジフューチャーズ)の電算部長だった橋本新氏で、設立すると東工取から各種の相談を持ちかけられ、ルームディーリングになってしまった。当初 東工取から部会活動は繁忙を極めた。シ



電算部会が始めたのは平成元年五月。東京工業品取引所がコンピューターによるザラバ方式のシステム売買実施の準備を急ピッチで進めている時だった。「みんなで効率良く情報を収集しよう」と、東京に電算システムがある十八社の責任者が集まり、設立した。初代会長は富士商品(現フジフューチャーズ)の電算部長だった橋本新氏で、設立すると東工取から各種の相談を持ちかけられ、ルームディーリングになってしまった。当初 東工取から部会活動は繁忙を極めた。シ

システム売買の勉強のほか、商取法につながる受託契約準則の改定による帳簿様式の変更と、システム売買における帳票類の検討などにも追われた。平成2年には、同じくザラバ方式の東穀取の大豆オプション、大阪砂糖取の粗糖オプションへの対応や東工取システムのリハーサル、問題点の話し合いも進められた。

その後の部会活動の主なテーマを列挙すると、パラジウム上場、金現物オプション、電算部門のコスト、貴金属日計り商いシステム、コンピューター危機管理体制、インターネットヘルミの上場、ウイルス対策、二〇〇〇年対応、改正商取法の施行と省令変更、受託契約準則改正に伴う業務指導基準の見直し、新規上場商品スケジュール、統一会計基準の見直し、東工取の次期システム、原油、大豆ミール上場、申告分離課税対応、サイバーセキュ

リティ、ブロードバンドなど、枚挙にいとまがない。

今年の三月までに行つた月例会は百五十六回。そのほか、数多くのセミナー、講演会、見学会を催している。平成九年度から二代目会長を務める長田哲也さんは、「業界の変化は常にシステムの変化を伴う。『間に合わせませんでした』と言ふわけにはいかないので、一週間でも十日でも早く連絡情報を欲しい。他社の事も聞きたい。このような機能を部会が果たしている。

部会は取引員への説明、問題点の洗い出しなどの面で取引所にとつても都合がよい」と、部長の役割に自信を示す。

新システムに傾注

当面の最大の課題は、来年一月に運用開始する東工

福井裕一 東工取電算部長の話



「これからが勝負。電算部会はお互いがシステムを円滑に運営していくための

重要な課題が多くなった時は、分科会を設けて、調査・勉強し、報告する。平成十年度には、①ホームトレードへの取り組み②ネットワークの再考(再構築お

ト)が多発したり、そのおそれがある②受託等業務に関し、新聞、テレビなどマスコミで信頼性を損なう行為が従業員の移動に伴い、相手方会員を誹謗、中傷するなどの報道があった③会員間の問題があるとされる会員を特別委員会に招致し、事情説明を求めてることを決めた。

問題があるとされる会員として特定する要件は、①日商協、国民生活センター、消費者センターなどで苦情がある――の三点。

問題とされる会員を招致

信頼性向上特別委員会

先物協会の信頼性向上に係る特別委員会は三月十九日、第三回会を開き、問題があるとされる会員を特別委員会に招致し、事情説

明を求めるなどを決めた。

問題があるとされる会員として特定する要件は、①日商協、国民生活センター、消費者センターなどで苦情がある

よび統合化)③アウトソーシング(業務委託)を主題にした。

こそ力活動③ 継続部会

東京電算部会

司長
世永司
副会長
世永九、十
年度の

だつた

平成

北辰商品電算室部長は、数はなるべく二十社前後を超えないようにしてきた。ただ、最近は電算部門をアウトソーシングにする会社が増え、中身が変わってきた」という。

会員22社(2月末現在)	
アイメックス	エース交易
岡地協	商貿
新栄日証券	サンライズ
ひまわり	カネイ
日本ユニコム	第一東洋レック
三菱商事	西京セネラル
トヨタ	北辰商品
トヨタ	明治物産
トヨタ	豊商事

(五十音順)



三月十日、名古屋国際女子マラソンで、グローバリーグローバリ、野口選手

田信之氏の野口みずき選手が初マラソンでは日本歴代二位の二時間二十五分十五秒で初優勝した。「ハーフマラソンの女王」といわれる野口選手だが、フルマラソンでも、一躍、世界の檻舞台に躍り出た格好だ。

特にハーフマラソンでは国内で優勝二回、世界ハーフマラソンでも、三位三回、「三位三回」――これまで野口選手が走った十五回の記録である。

この優勝で、「スピードをつければ世界のトップと互角に渡り合える」(藤田監督)といえる。